

坂本美雨

[芯のある透明色でありたい]

Miu Sakamoto

シンガー／ミュージシャン



Photo / Ko Hosokawa
Text / Eiichi Yoshimura

人の役に立ちたいという欲求が、私に色を与えた

高校生の頃はグラフィック・デザイナーを目指していました。当時から強い色よりは淡い色のグラデーションに惹かれていた。何色ってはっきり言えない色のグラデーションが好きだったんです。

日本語って色を表す語彙がすごく多いですよね。グラデーションの中にあるなんとも言えない色にすごく美しい名前がつけられている。ニューヨークで育ったからこそ、日本語のそういうところが美しいなあといつも私は思っていました。

デビューしてずっと、アーティスト・イメージはCDのジャケットなども含めてモノトーンや暗い色だったりしました。それが変わってき

たのがデビューして10年も経った頃。『ZOY』というアルバムで初めて淡いパステルの色彩をジャケットに使い、それ以降はピンクだったり真っ青だったり、とてもカラフルなイメージになっていきました。

それまで、自分の歌で強く自己主張するということをしなくなかったし、避けていた。自分を出すのではなく、音楽という崇高なものの源泉みたいなところに無私で沿いたいという欲求があったんですね。

ところが、音楽を作る動機が変わって、そういう意識も変化した。その頃、自分の音楽で人の役に立ちたいという欲求が生まれたんです。デビューから10年たった頃は、実は自分が音楽

をやる意味を見失っていて、なんのために歌っているんだろうという迷いの時期でした。自分の音楽で誰かの役に立ちたいという新しい目的を見つけて、自然と歌もイメージもカラフルになっていったんです。

私の歌声は「透明感がある」と言っていたことが多くいんです。

でも、透明だからメッセージがないわけじゃない。透明は無色じゃなくて透明色という「色」だと思う。透明な水が空を映して青く見えるように、いろんな音やメッセージをちゃんと映し出したり、逆に反発したりという色であるべき。私はそんな自分の声を、きちんと芯のある透明色にしたいと思って歌っています。

PROFILE 1980年東京生まれ。音楽家の両親の下に生まれ、9歳のときにニューヨークに移住。16歳のとき、透明感のある声に注目されて、父の坂本龍一（母は矢野顕子）とのコラボレーションでデビュー。その後ソロ・デビューを果たし、多くのアルバム、シングルを発表。音楽活動以外にラジオのパーソナリティー、テレビのナレーションなど美声を生かしての仕事も多い。また、動物愛護活動にも熱心で、愛ネコの「サバ美」も元野良の保護ネコ。